

トピックス

小学生98人がたくましく完歩

第5回 おのみち100km徒歩の旅

ボランティアが支える青少年育成事業

第五回おのみち100km徒歩の旅が八月六日から十日までの五日間にわたって行われた。百四十人の応募から選ばれた四年生以上の小学生男女九十八人が参加、全員が無事に完歩、豆だらけの足にも負けずたくましく成長した。

最初は足の痛みや頭痛から遅れる子どもも多かったが、炎天下、朝か

ら夕方まで歩き通す五日間を経験した子どもたちは互いに励まし合い、強い絆で結びつき、愛と意志の力を確認したようだった。

事業の主催はおのみち100km徒歩の旅実行委員会（柿本和彦実行委員長）(㈲栄和商事社長。今年尾道大学、広島大学、県立広島大学、広島国際学院大学の学生ボランティア約六十人が手弁当で運営を支えた。準備のため十二回の全体研修会と担当グループごとの会合を合わせた二十回以上の会合でプランニングから関係者との交渉、用具の準備まで万全を尽くし、人件費に換算すると一千万円以上とも思える一大事業を汗で支えた。



福岡の筑紫J.Cが十年前に火をつけ、現在では全国二十カ所ほどで実行されている徒歩の旅。尾道J.Cが火をつけた尾道の徒歩の旅は、次回からNPO法人おのみち寺小屋（柿本和彦理事長）が今回から始めた企業協賛を頼りに実施する。



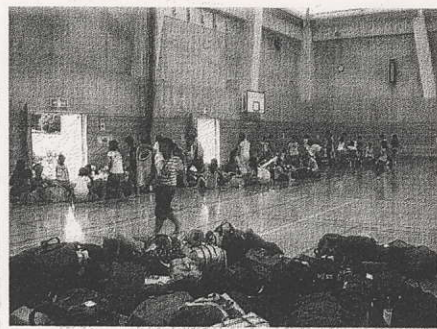
水かけ。給水所では水を首筋にかけた。熱中症対策として喜ばれたサービス。



給水。猛暑が襲った5日間。随所に給水所を設けたが、水の運搬は大変な仕事。



8月6日結団式。千光寺公園のグラウンドではまだ「楽しみ」といった気持ち。



カバン。徒歩では持てない荷物は宿泊先まで別動隊が先回りして運ぶ。



給食。調理した食事を給仕。人気のカレーやどんぶりはおかわりも相次いだ。



調理。参加児童98人にスタッフ分を加えた調理。朝はパン、昼は仕出し弁当。